

クオリティインディケーター(QI)成果報告 〔麻酔科〕

指標名

麻酔科管理症例における麻酔科術前外来受診率

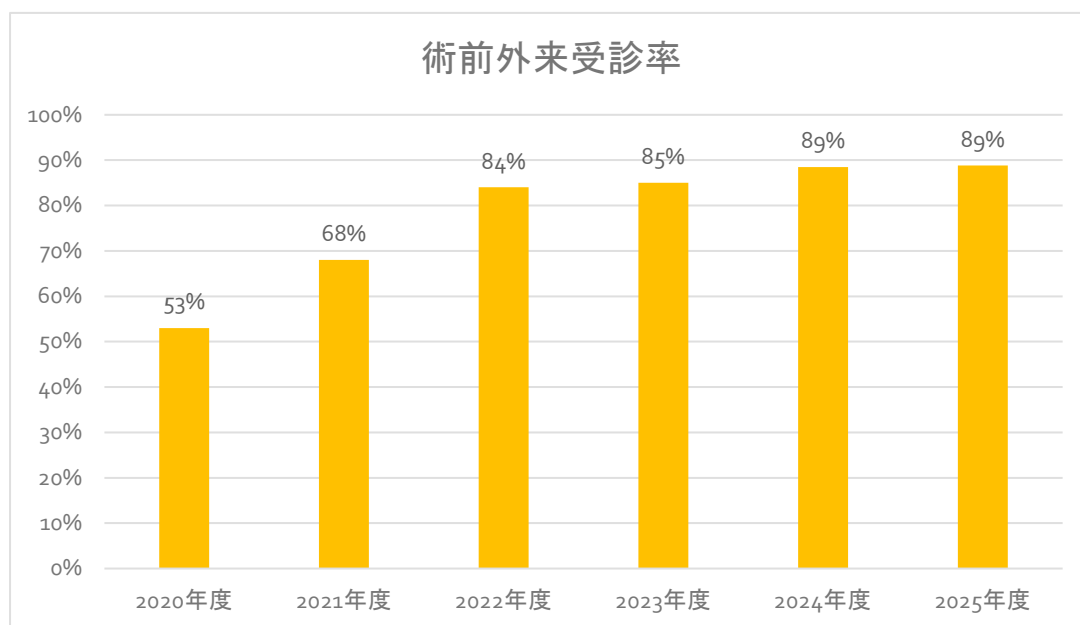
目標・ゴール

麻酔科が管理する手術・検査・処置前の麻酔科術前外来受診率90%を目指す。

目標・ゴール達成による効果

多職種（医師・看護師・薬剤師）による患者情報の共有を強化し、より安全で効率的な周術期管理を行う。

目標・ゴールに対する成果の状況



目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

- ☐S :大幅に目標を上回った
- ☐A⁺:目標を多少上回って達成
- ☐A :目標を達成
- ☒B⁺:目標を少し下回った
- ☐B :目標を下回った
- ☐C :目標を大幅に下回った
- ☐- :外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

2025 年度の麻酔科外来受診率は 88.8% (麻酔科管理症例数 7913 人に対し麻酔科外来受診者数 7029 人)であり、前年度と比較し上昇したものの目標の 90%は達成できなかった。ただし、緊急手術症例を除くと受診率は概ね 100%となり、定期手術および検査・処置を受けるほぼ全ての患者が麻酔科外来を受診している結果となった。

麻酔科管理症例には一定の割合で緊急手術が含まれ、その多くは術前外来を受診しないことから、受診率の大幅な上昇は期待できないが、今年度も目標値を 90%としてさらなる受診率の増加を目指す。

麻酔科医の役割は手術室内の麻酔管理にとどまらず、検査や処置における麻酔や無痛分娩など手術室外にも拡大しつつある。

麻酔科外来で事前に患者の全身状態を評価し多職種と共有することで、安全で効率的な周術期管理への寄与が期待できる。